

EMAST原発性上皮性卵巣癌におけるMSH3およびp53異常の検討

1. 研究の対象

当院で施行された前研究「原発性上皮性卵巣癌におけるDNAミスマッチ修復異常の検討」でEMASTと判定された症例

2. 研究の目的

前研究では一般的な解析において判定される卵巣がんにおけるMSIの頻度は低頻度でしたが、4塩基反復領域にMSIを生じる、elevated microsatellite alterations at selected tetranucleotide repeat (EMAST)が25例(13.1%)に確認され、上皮性卵巣癌においては 大腸がん等でも注目されているEMASTが最も高頻度なMSI型であるという新知見が得られました。

そこで本研究において卵巣がんにおけるEMASTの意義についてさらに詳しく解析することを目的としました。

3. 研究の方法

マイクロサテライト領域遺伝子不安定性 (microsatellite instability: MSI) の解析においてEMASTと判定された症例の手術摘出標本の癌部および正常部のパラフィン包埋切片 (formalin-fixed paraffin-embedded specimen: FFPE) の10 μ m FFPE 切片各3枚を提出し以下の解析を行います。

- 1) EMAST症例におけるMSH3遺伝子コピー数の解析
- 2) EMAST症例におけるMSH3遺伝子pathogenic mutation解析
- 3) EMAST症例におけるp53遺伝子pathogenic mutation解析

4. プライバシーの保護について

本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で参加施設から提供され、使用します。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。

5. 研究結果の開示について

当院においては、解析結果によりEMASTと判定された存命の患者さんについて、希望される場合は、説明を行います。また、本研究において判明した他の解析結果等についても、遺伝性疾患が疑われる場合等は、院内で検討し、説明を希望された場合には、説明を行います。さらに希望される場合は、がん遺伝外来でのカウンセリングも提供いたします。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんにご了承いただけない
場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合
でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 婦人科 齋藤 俊章

住所 〒811-1395 福岡市南区野多目3-1-1

TEL：092-541-3231（代表） / FAX：092-551-4585

研究代表者：

東北医科薬科大学産婦人科 教授 渡部 洋

住所 〒983-8536 宮城県仙台市宮城野区福室1-15-1

TEL：022-259-1221 / FAX：022-290-8959